

第2回 核融合及応用懇談会の準備会議事録

日時 昭和32年10月5日
場所 原子力局局長室
出席者 原子核研究所 菊地正士
原子力研究所 嵯峨根 瞭吉
基礎物理学研究所 湯川 秀樹代理
中村 誠太郎
原子力局 法貴 四郎

懇談要旨

法貴幹事より第2回核融合及応用懇談会の開催について案が提出され、この案を中心に懇談が進められた。要旨は次の通りである。

- (1) 核融合及応用を行うには多額の予算を必要とするので昭和34年度原子力予算には億単位の予算を準備する必要がある。また原子力予算が大学に流れるよう文部省と調整することを望ましい(菊地)。原子力局はこれように努力する(法貴)。
- (2) 現在ではまだ一つの研究に多額の予算をつけて大規模の研究を行う段階ではないので各大学、研究所の基礎的な研究を育成する必要がある(菊地、法貴)。

将来大規模な研究を行う段階になれば原子力研究所において集注的に行いが効果的であるが現在はまだその時期でなく、かつ、原子力研究所に余力がない。
(3) 懇談会当日の講演は既に何回も発表され討論されているものを避け新しい内容のものを考慮する(中村)。この件は中村幹事に一任する。
(4) 今回は衝撃波、流体力学系統の研究者は一応除いておく。